

---

# そよかぜ保育園

## \*\*\*評価結果\*\*\*

---

2014年3月

---

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関第26号 横浜市福祉サービス第三者評価指定機関第17号

評価実施機関：特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201号

TEL045-228-9117・FAX045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>

---





## 実施概要

事業所名	そよかぜ保育園	
事業所への報告書 提出日	2014年3月18日	(評価に要した期間 5か月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター	

### \*評価方法

1. 自己評価 **【実施期間：2013年10月20日～2014年1月10日】**
  - ・職員会議で説明をして、常勤・非常勤すべての職員各個人が記入。
  - ・記入の難しかった部分を振り返り、意見交換をして再度記入し、集計・一覧にして仕上げた。
  - ・工夫事例などについては、全職員のを園長・副園長・主任で協議し、合意してまとめた。
2. 利用者家族アンケート調査 **【実施期間：2013年11月1日～2013年11月15日】**

配付：全園児の保護者（82家族）に対して、園から手渡しした。  
回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 **【実施日：2014年1月17日、2014年1月20日】**

第1日目  
午前：各クラスの保育観察、散歩にも同行～園児と一緒に昼食をとる。  
午後：書類調査～事業者面接調査（園長）

第2日目  
午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。  
午後：職員ヒアリング（クラスリーダー5名、看護師、栄養士、非常勤職員1名）、主任～事業者面接調査（園長）
4. 利用者本人調査 **【実施日：2014年1月17日、2014年1月20日】**

訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。  
乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。

## 評価結果についての講評

(高く評価できる点、独自性のある点、今後期待される点、工夫改善点などについての総括)

### 【施設の概要】

そよかぜ保育園は、JR 横浜線「鴨居」駅から徒歩で 5 分ほどのマンション群に隣接しています。園の裏手には鶴見川が流れ、四季の変化が感じられる川沿いの遊歩道は子どもたちの散歩道です。

そよかぜ保育園は、2005 年(平成 17 年)4 月に、社会福祉法人横浜かがやき会によって開設されました。定員は 90 人(産休明け～5 歳児)、開園時間は平日は 7 時～20 時、土曜日は 7 時～18 時です。

鉄筋コンクリート造りの園舎は、全面強化ガラスを用いていて、外との一体感があり、子どもたちは窓越しに四季の移り変わりや雨や雷などの天候の変化を感じることができます。また、広いホールとウッドデッキがあり、子どもたちは毎日体操をしたり、走ったり、跳んだりして身体を思いっきり動かしています。

「みんなの家」をコンセプトとし、保育理念として『「児童憲章」「児童福祉法」「保育所保育指針」ならびに「子どもの権利条約」に基づき、保育理念を定める。1、子どもの健やかな育ちの保障、2、保護者に安心と信頼をされる暖かな支援、3、子ども同士、子どもと大人、保育者と保護者などがともに育ちあうところ、4、地域の子育て支援の充実。』保育目標として「いきいきと健やかに充実した毎日を過ごし、人とかかわりを通して育ち、意欲と自信を持って未来にむかって生きる子ども、1、機嫌のよい子ども、2、感性豊かな子ども、3、仲間とともに育ちあう子ども、4、みずからすすんで行動する子ども。」を掲げています。

### 1. 高く評価できる点

#### たくさんの経験を通し、子どもたちは健やかに育っています

保育士は「ほめる保育」を心がけていて、子どもたちに肯定的な言葉で話しかけ、子どもから思いや要望を引き出しています。このような働きかけのもと、子どもたちはのびのびと自分を表現しています。

遊びの場面では、子どもの遊びの様子を見て子どもの発想をほめ、ヒントを出したり、保育士自身が見本を見せたりし、子どもが遊びを広げられるよう支援しています。ブロックを用いた自由遊びで、一人ずつの作品を友だちや保育士に見せてお互いの作品をつなげて大きな作品に発展させたり、同じ作品ばかり作っている子どもに保育士が違う作品を作って見せ他の遊びに発展させたりなど、保育士の働きかけで子ども自身が遊びを広げています。

また、子どもの健康な身体作りのため、体育指導や散歩などの活動をたくさん取り入れています。毎朝のラジオ体操から始まり、体育指導や散歩で子どもたちは思いっきり身体を動かしています。散歩は歩くことを目的に長距離を早足で行いますが、散歩先での子どもたちは地域の人々と会話を交わし、鶴見川の四季の変化を楽しみ、人々の生活の営みに興味を示していて、身体を鍛えるとともに感性や社会性を養っています。また、子どもたちがたくさんの経験を通し感性を養えるよう、音楽指導や絵画指導、自然教室、陶芸教室なども実施しています。

このように、子どもたちはたくさんの経験を通し、健やかに育っています。

#### 職員は思いを共有し、連携して保育にあたっています

職員構成は、20代から90代まで幅広い年齢を網羅し、若手、中堅、ベテランをバランスよく配置した構成となっています。職員集団は年1回の合宿研修で理念や方針を確認し、思いを共有しています。保育士は、毎月のケースカンファレンスでケース検討や障がい児保育、感染症予防などについて園内研修を重ねるとともに、外部研修にも積極的に参加しています。また、体育指導、音楽指導、絵画指導、自然教室等の外部講師の技法を見ることで子どもへの指導法を学んでいます。

保育士は子どもとのコミュニケーションを大切にしている、子どもを肯定的に見るように努めています。叱る時も真剣に向き合い、大人として「教える」ことで子どもの人間力・生活力を育てています。このように子どもと向き合うためには、保育士自身の人間力が大切だという思いから、ケースカンファレンス等で自分自身の保育を常に見直しています。

指導計画や日誌等は、保育士資格を持つベテラン看護師が毎日必ず目を通し、丁寧に朱を入れていきます。より良い保育への助言、指導、ヒント、共感や励まし等が書かれ、保育士の励みになるとともに、気づきにつながっています。

このような人間関係を育てる取り組みを通し、保育士間のコミュニケーションも図られ、保育の現場での連携にも生かされています。

#### 地域の施設として根付いています

園は、地域とのつながりを大切にし、自治会にも所属し、理事の中には地域住民もいます。地域自治会との関わりから地域の情報を常に収集しています。コンサート等園の行事に地域住民を招待するとともに、地域交流として「わらべうたであそぼう」、異世代交流として「いっしょにうたいましょう」などを開催し、園の取り組みを理解してもらうよう努めています。

子育て支援としては、一時保育、園庭開放、交流保育を実施するほか、地域の子育て家庭を対象とした園長による母親講座や保育士による子育て支援講座を開催しています。また、電話による育児相談を随時受け付けるとともに、園長が家庭福祉員の保育相談に応じたり、母親グループの支援を行ったりしています。

子どもたちも行事だけでなく、散歩等で地域住民と自然に交流していて、顔見知りの地域住民と会話したり、ハイタッチしたりする姿が観察時にも見られました。子どもたちの散歩コースで待っている人もいて、子どもたちが地域に見守られ育っている様子が伝わりました。

運動会の準備や片付けに地域のボランティアが協力したり、地域住民による音楽バンドが運動会の入場行進の生演奏をしたりと、保育園は地域の施設として根付いています。

## 2. 独自性のある点

#### 保護者が共に子どもとともに育つよう、支援しています

園では保育理念に「子ども同士、子どもと大人、保育者と保護者などが共に育ちあうところ」を掲げ、

保護者が子供と共に育ちあえるよう働きかけています。

0・1・2歳児は個人別の月案を保護者に配布し共有するとともに、保護者に子どもや子育てに関する保護者の思いと振り返りを記入してもらい、保護者も子どもと共に育ちあえるように配慮しています。また、保育参加も自分の子どもがいるクラス以外に入り、園全体の保育を見てもらい、子育てについて保護者が客観的に考える機会としています。

また、0歳児の懇談会では搾乳の時の注意点や離乳食の進め方などを取り上げ、保護者の意識向上を図っています。保護者の子育ての悩みに答えるため、送迎時の保護者の様子を観察し、必要によっては園長、副園長、主任、看護師等による「ワンポイント相談アドバイス」を実施するなど、保護者が安心して子育てに取り組み、子どもと共に育つよう支援をしています。

### 3.工夫改善点

#### 今後の園運営に向け、より一層の文書化が望まれます

職員はケースカンファレンス等で常に自身の保育を振り返るとともに毎年の合宿研修でもレポートを提出し振り返りを行っていますが、定型化した自己評価チェック表などは作成していません。また、個人別育成計画や職務権限規程、個人情報保護等についても職員に周知され、実施されているにもかかわらず、文書化までには至っていません。記録についても、子どもの記録や健康・安全に関するものは丁寧に書かれていますが、他は必ずしも徹底していません。

職員間での連携がよくベテランが多いこともあり、文書化されなくとも職員が理解し、保育の質が確保されていますが、職員の交替なども考え、今までの取り組みを記録するとともに、定型化し文書として残すことが期待されます。文書化することで、それぞれの意義や目的などがさらに明確になり職員間で共有されるとともに、園のノウハウが今後の園運営に活かされることと思われます。

また、後継新体制のビジョンと中長期計画についても文書化することが期待されます。





## 分類別評価結果





「ひょう太マーク」は、各評価分類の水準を表しています。

3 つ：高い水準にある 2 つ：一定の水準にある 1 つ：改善すべき点がある

### 評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と 保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育理念として</li> <li>・ 『「児童憲章」「児童福祉法」「保育所保育指針」ならびに「子どもの権利条約」に基づき、保育理念を定める。</li> <li>・ 子どもの健やかな育ちの保障</li> <li>・ 保護者に安心と信頼をされる暖かな支援</li> <li>・ 子ども同士、子どもと大人、保育者と保護者などがともに育ちあうところ、</li> <li>・ 地域の子育て支援の充実 』</li> <li>・ を掲げ、それに基づき保育目標、保育方針を定めています。保育理念、保育目標、保育方針は利用者本人を尊重したものになっていて、サービスの実施内容は保育の基本方針に沿っています。</li> <li>・ 保育課程は子どもの最善の利益を第一義に、保育理念・保育方針・保育目標や家庭の状況、地域の実態を考慮して、年齢ごとにクラス担任が話し合って丁寧に作成しています。</li> <li>・ 保育課程に基づき、年齢ごとに年間及び月ごとの指導計画を作成しています。また、日々の通常の保育を大切にしている、年齢ごとの詳細なデイリープログラムを作成しています。</li> <li>・ 保育士は、子どもとのコミュニケーションを通し子どもからの思いや要望を引きだすように努め、子どもの言葉や表情から把握した子どもの要望や意見を計画に反映しています。</li> </ul>
<p>I-2 子どもの発達や状況に 応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入園オリエンテーション後に親子の個人面談を行っています。面談では、保護者が記入した「児童票」「離乳食のすすみ具合」「入園までの生活状況」をもとに、園長、担任、看護師が健康面、生育歴、食事、保護者の要望などについて丁寧に保護者に確認しています。把握した情報は記録するとともに、職員会議で全職員で共有し、日々の保育に活かしています。</li> <li>・ ならし保育は子どもの様子を見ながら、保護者と保育時間を相談し、保護者の就労状況にも配慮して実施しています。</li> <li>・ 0,1歳の新入園児に対しては、クラス担任全員で見ることとし、主担当制はとっていません。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児は毎日、幼児は必要に応じて連絡ノートを用い丁寧に保護者と情報交換し連携しています。乳児は家庭との生活リズムの連続性を考慮し、複写式の育児日誌を用いています。</li> <li>・ 年間指導計画、月案をクラス担任が話し合い作成しています。作成した計画は、ケースカンファレンスにおいて全職員で共有しています。子どもの様子に変化があった時には、その都度、話し合い見直しています。</li> </ul>
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境整備に力を入れていて、衛生管理マニュアルに基づいて園内・外とも清掃され、常に清潔に保たれています。一日に3回（9時、12時、16時）、保育室を含め園内・外の温湿度を確認してグラフに記録し、常に快適な温湿度が保てるように配慮しています。</li> <li>・ ホールは吹き抜けになっていて声や音が通りやすい構造ですが、保育士はお互いの活動内容について常に情報交換し調整しているので、他のクラスの音楽や声が活動の邪魔になることはありません。</li> <li>・ 低年齢児では小グループに分けた活動ができるよう、コーナーを設定するとともに、予備室やホールを活用し、落ち着いて活動できるよう工夫しています。</li> <li>・ 午睡時は保育室を一度片づけてから、小児用のキャリーベットを用いていて、食べる・寝るの使い分けがなされています。</li> <li>・ 園舎はホールや他の保育室の活動が全て見渡せることに加え、3・4・5歳児保育室は仕切りのないオープンスペースとなっているので、子どもたちは日常的に異年齢で交流しています。観察時にも、年上の子どもが年下の子どもに遊び方を教えたり、年下の子どもが年上の子どもの体操や活動を憧れの目を持って見つめたりする姿が見られました。</li> </ul>
<p>- 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0・1・2歳児は個別指導計画を作成しています。幼児についても、特別な課題がある場合には個別の計画を作成しています。また、体育指導についても必要に応じて個別の指導計画を作成しています。</li> <li>・ 0・1・2歳児は個人別の月案を保護者に配布し共有するとともに、保護者に子どもや子育てに関する保護者の思いと振り返りを記入してもらい、保護者も子どもと共に育ちあえるように配慮しています。</li> <li>・ 保育所児童保育要録を作成し、該当小学校に園長、クラス担任が持参し、口頭でも伝達しています。</li> <li>・ 児童票は園独自のもので、生育歴、妊娠・出生時と乳児期の状況、発達、子どもの良い所、しつけの上に重点を置いたことなどが詳しく記載されています。入園後の子どもの成長発達は発達記録、経過記録に記録され、児童票と共に個人別にファイルされています。</li> </ul>



- 5

保育上、特に配慮を要する  
子どもへの取り組み



- ・ 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。
- ・ 月1回のケースカンファレンスで、クラス状況、月案、気になる子どもの姿、保育士の関わり方等について話し合っています。ケースカンファレンスには理事である臨床心理士が参加し、個々のケースや障がい児保育について助言・指導しています。
- ・ 月1回、臨床心理士の親子面談があり、保護者も一緒に助言・指導を受けています。また、必要に応じて北部地域療育センターや医療機関と連携しています。
- ・ 園規則に虐待等の禁止、児童虐待防止法遵守を定め、全職員に周知しています。また、職員研修で中央児童相談所の担当係長から虐待やその見分け方についての講義を受けています。
- ・ 保育士は朝の受け入れや着替え時に子どもの身体や表情、体調等を確認し、疑わしい場合は園長に報告しています。虐待が明白になった場合や疑われる場合、見守りが必要な場合には北部児童相談所や区の保健師と連携する体制ができています。
- ・ 食物アレルギーのある子どもに対しては、子どものかかりつけ医からの指示書に基づき、個々の実施計画書を作成し、除去食、代替食を提供しています。
- ・ 代替食、除去食を提供する場合には、個別の献立で調理も個別に行う、保育士同士で確認する、食器やトレイを別にし名札を付ける、など誤食事故を防止するための取り組みを行っています。
- ・ 外国籍など文化が異なる子どもが入園した場合には、文化や考え方の違いを認め尊重しています。意思疎通が困難な場合は身ぶり手ぶりで会話する、英語を用いるなどで対応しています。


- 6

苦情解決体制



- ・ 苦情解決マニュアルがあり、「園のしおり」の中の「苦情受付窓口の設置について」で明記し、保護者に周知しています。また、玄関にも掲示しています。
- ・ 第三者委員を定め、保護者に周知しています。園の行事に第三者委員を招待するなど、常に交流しています。
- ・ 要望や苦情の内容とその対応策について職員会議等で話し合っています。過去の苦情・トラブル・要望等は記録し、運営に反映しています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育室にあるおもちゃや教材などは、引き出しから自由に取り出して遊んでいます。絵本は、本立てや棚に置かれ、読みたい本を取り出しています。</li> <li>・ カード遊びのコーナーでは、保育士と一緒にカードゲームをして、立体パズルブロックのコーナーでは、車やヘリコプター、コマを作っています。良くできた作品は、子どもたちの評価を得たうえで、玄関に飾っています。自由遊びでは、十分に遊び込める時間を設けています。</li> <li>・ 散歩に行く場所は、子どもからいくつかあるコースの中から行きたい場所を聞き、保育士が決めています。つららのある場所に行きたいという声から、川沿いの遊歩道を通り、サッカー場（通称ラジコン広場）で川原に降りて、水たまりの氷に触れています。階段で遊んだり、広いサッカー場を走り回ったり、少人数で走る速さを競うなど、子どもが興味や関心を持ったことを活動に取り入れています。</li> <li>・ 散歩の帰りに広場で遊びたいという声が聞かれたときは、広場で鬼ごっこをしてから園に帰っています。子どもの"やりたい"気持ちを受け止め、活動に取り入れています。</li> <li>・ 5歳児のミニ遠足では、水筒を持って四季の森公園に行き、歩き疲れてペースが落ちると、ラムネでエネルギーを充電しています。元気になった子どもは、公園で駆け上がったり、広場を走ったりして遊び、みんなで頑張ることを学んでいます。</li> <li>・ 近くの空き地を借りて、トマトやさつまいもを育てています。また、マリーゴールドの花を育てて、地域の公園に植えるなど、子どもがボランティア活動を体験しています。</li> <li>・ 園の近くには鶴見川があり、子どもたちの散歩コースとなっています。遊歩道には季節の草花があり、白鷺や昆虫を見つけるなど日常の活動で自然に触れる機会を設けています。</li> <li>・ 年4回の自然教室では、オヒシバ・メヒシバで傘を作ったり、イタドリの笛を作ったり子どもの興味を引き出す活動を取り入れています。</li> <li>・ 陶芸、自然、体育、音楽、絵画の専門家が指導員として訪れています。音楽指導では、怒鳴るのではなく、きれいな声で歌うことを教え、自然教室では水の中に絵の具を落とし、障子紙に色を写しとり、色の変化を体験しています。体育指導では、ヨガを取り入れた運動でからだを動かしています。専門家の指導を受けた子どもたちは、</li> </ul>

絵や運動を通して自由に表現しています。

- ・ 子ども同士のけんかやトラブルは、子ども同士で解決できるように見守っています。なぜけんかになったのか、子どもと一緒に考え、解決できるように促しています。乳児の場合は、おもちゃの取り合いのときなどに、子どもの気持ちを保育士が代弁しています。
- ・ 0・1歳児の保育室は1階にあり、大きな窓から年上の子の遊ぶ様子を見ることができます。1歳児は、3・4・5歳児のラジオ体操を見て、自ら身体を動かしています。
- ・ 子どもとの信頼関係を大切に考え、叱るときでも子どもと本気で向き合い、大人として"教える"ことで子どもの人間力・生活力を培う力を育てています。
- ・ 園では土踏まずのない子どもが増えていることを懸念しています。音楽に合わせて行うヨガやホールとウッドデッキを走ること、散歩を多く取り入れることなどによって足裏へ刺激を与え、バランス能力や歩行能力の向上を目指しています。子どもたちに、「午後は何するの」と聞くと「ヨガ」と嬉しそうな声で返事をしています。

- 1

保育内容[生活]



- ・ 食事は、強制したり偏食を直そうとはしていませんが、偏りなく満遍なく食べるよう促しています。嫌いな食材は、他の子どもが食べている様子を見て、食べたいと感じ、食べられたときに褒めています。
- ・ おいしい食事は、おかわりをする子どもが多いことを把握し、子どもが「おいしい」と感じる食事の提供に努めています。
- ・ 乳児の授乳は、抱っこをして視線を合わせながら与え、集中して授乳できるよう、あまり話しかけはしていません。離乳食後の授乳は、哺乳瓶を自分の手で抱え飲んでいきます。自分の哺乳瓶を大切に抱える姿は子どもの「生きる力」と考えています。この考えは、そよかぜ保育園が大切にしていることのひとつです。
- ・ 離乳食のときは、子どもにスプーンを持たせず、指の機能を十分に発達させるため、指でつまめるものは指を使い、手づかみで食べることを勧めています。
- ・ 子どもが食事や調理に関心が持てるよう食育に取り組んでいます。うどん生地を足で踏み、コシのあるうどんを作っています。管理栄養士の指導を受けて、自分の食べる鰯の骨を取る体験をしています。そら豆のさやを剥き、ふかふかの感触を感じたりさやに入っている豆の数を数えたり、子どもが興味を持つことができます。
- ・ 毎月、子どもの好きな献立を取り入れたパイキング給食を行っています。パイキングで食べ過ぎてしまっても「腹八分目」を学ぶ良い機会であると考え、子どもの考える力に変えています。



- ・ 食材は、横浜市の放射能事前検査を受け、安全な食材を使用しています。玄関には、食材の産地を掲示しています
- ・ 食事のときの姿勢、食器・箸の持ち方などマナーを教えています。
- ・ 給食は、外部の業者に委託しています。毎月、献立会議、離乳食会議を開き、委託先の管理栄養士も参加しています。なお、平成 26 年度からは、給食は直営になります。
- ・ 献立表は、事前に保護者に配布しています。毎月、「そよかぜ給食だより」を発行し、食中毒や夏バテなど季節に応じて注意を促しています。給食だよりには、季節に合わせたレシピを紹介しています。
- ・ 0 歳児の懇談会では、搾乳のときの注意点や離乳食の進め方、飲み込む力は嚥下の成熟を促すことなどを知らせ、保護者の意識向上を図っています。
- ・ 乳幼児突然死症候群の対策として 2 歳の誕生日まで午睡の時に 5 分ごとに呼吸をチェックし、記録しています。
- ・ 5 歳児の午睡は、年度初めから少しずつ時間を短くし、食事のあとは、「ゴロゴロタイム」を設けています。
- ・ 排泄は、子どものリズムを把握し、登園した時間から排泄の時間を割り出し、子どもに促しています。
- ・ トイレトレーニングは、一人ひとりの発達の状況に応じて、保護者と連携して行っています。

- 2



健康管理・衛生管理・  
安全管理[健康管理]



- ・ 「健康管理年間計画表」を作成しています。登園時には、検温することが徹底され、顔色や表情、活気などの健康観察を行い、健康状態を把握しています。
- ・ 当園は、保健師資格を持つ職員が 1 名、看護師資格を持つ職員が 3 名在籍しています。小児保健 = (イコール) 小児保育という考えのもと、保育に取り組んでいます。
- ・ 年 2 回の健康診断と年 1 回の歯科健診を実施して、子どもの健康状態を把握しています。健診結果は、保護者に速やかに知らせています。
- ・ 3・4・5 歳児は、歯磨きをしています。歯科医師による歯磨き指導を受け、「歯磨きをしないと虫歯になる」「食べたら磨く」「磨く順番を決める」を『三つの大事なこと』として指導し、「椅子に座って磨く」「磨いている音が聞こえるように磨く」「磨けているか確認する」の三つの約束をしています。
- ・ 日本保育園保健協議会の「保育園における感染症の手引き 2010」をマニュアルとしています。
- ・ 登園停止基準や感染症の疑いが生じたときの対応は、保育園のしおりに明記し、保護者に知らせています。



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育中に発熱、嘔吐、下痢などの症状がみられたときは、他の子どもと隔離して、保護者に迅速に知らせています。玄関には、各クラスの感染症を発症した園児、職員、園児の家族の人数、症状を掲示して保護者に知らせています。</li> <li>・ 嘔吐物の処理方法については、看護師の指導による演習を行っています。感染症をテーマとした外部研修に参加し、研修で得た情報として、5本の指を一本一本注意して洗う方法を職員に周知しています。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消毒マニュアル、消毒滅菌マニュアルを作成しています。乳児のおもちゃは、使用したあとに消毒してから片付けています。</li> <li>・ ホールやトイレなどの共用スペース、保育室の掃除は、当番の職員が実施し、日誌に記録しています。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「そよかぜ保育園緊急マニュアル」「事故防止・発生時対応マニュアル」のほかに「防犯・防災について」と「大震災マニュアル」を作成しています。</li> <li>・ 作り付けになっていない棚には、ボルトで転倒防止対策をしています。強化ガラスを使っている窓には、飛散防止フィルムが貼ってあります。</li> <li>・ 地震や火災を想定した避難訓練を毎月、行っています。年1回、災害を想定した引渡し訓練を行っています。</li> <li>・ 日本赤十字社の指導員を招き、A E D(心肺除細動機)の使用訓練、心肺蘇生法の訓練を行っています。A E Dの使用は、0歳児も対応可能となり、0歳から幼児の人形を用意して行っています。また、訓練は、家族にも参加を呼びかけています。</li> <li>・ 保育中に子どもがケガをしたときは、軽傷であっても保護者に知らせています。事故が起きたときは、朝の申し送りで共有し、再発防止、改善策を検討しています。</li> <li>・ 日常保育では、養護の行き届いた安全な保育環境の提供に努めるほか、様々な体験を通して、子ども自身が安全管理能力が培うことができるよう指導しています。</li> <li>・ ヒヤリハットと事故報告書は作成していますが、基準が曖昧なため、ヒヤリハットと事故の基準を定め、再発防止・改善策が妥当であるか、確認することが必要と思われます。</li> <li>・ 玄関は常に施錠しています。年・度初めには、送迎する保護者の顔写真を登録し、受け入れ、引き渡しをしています。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>園外には、防犯カメラを設置して、死角を作らないように配慮しています。また、不審者を想定した訓練を行っています。</li> </ul>
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの呼び方は、名字に「～さん」を付けて読んでいます。命に関わる危険なときは、厳しい呼び方、言葉かけになることもありますが、子どもとの信頼関係を大切にしたい保育を行っています。</li> <li>子ども一人ひとりの特性を把握し、せかしたり強制したりせず、子どものチャレンジしたい、やりたい気持ちを引き出し、できたときには褒める、できなかったときには手を差し伸べています。</li> <li>臨床心理士がケースカンファレンスに参加し、言葉の使い方(肯定的な言葉を使う)についてアドバイスしています。また、職員の合宿研修では、人間関係トレーニングをテーマとした研修を行っています。</li> <li>子どもが視線を気にせず過ごせる場所として、空いている保育室を利用しています。子どもが落ち着かない時などには、「園長のところで勉強してくる」時間を作り、一対一で話す機会を設けています。</li> <li>個人情報に関する記録は、事務室の施錠できる場所に保管し、管理しています。会議やカンファレンスで使用した個人情報、個人が特定できるような資料は、会議後にシュレッダーにかけています。</li> <li>職員には、守秘義務や個人情報の取り扱いについて、職員会議などで話し合う機会を設け周知・徹底をしています。</li> <li>保護者には、入園説明会、懇談会のときになどに個人情報について説明していますが、パンフレットやホームページなどに個人情報についての園の姿勢や取り組みなどを載せ、保護者等に知らせることが必要と思われます。また、行事の写真についても保護者から文書で同意を得ることも必要と思われます。</li> <li>遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性差による区別はしていません。グループ分け、順番、整列なども性別で分けていません。</li> </ul>
<p>- 4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>入園前の説明会で、園の保育理念、保育目標、保育方針について説明し、保護者の理解を求めています。また、年4回以上行うクラス懇談会でも園の方針を説明しています。</li> <li>年度初めの園だよりに、生活リズムの大切さや豊かな情操を育てることなど園の保育の姿勢を伝えています。</li> <li>送迎のときは、家庭での様子を保護者に確認したり園での様子を伝えています。保護者に伝える内容は、「申し送り票」に残し、お迎えが遅い保護者にも的確に伝わるようにしています。</li> <li>送迎時には、保護者と直接言葉を交わすことを心がけています。事務室の小窓越しに、子どもと保護者、職員が何気ない会話をしている様子が見えたり聞かれました。</li> </ul>




- ・ 個別面談は、保護者から要望があった場合などに実施しています。子育ての悩みは「待ったなし」であると考え、登園のとき、降園のときなど時間を決めず、臨機応変に対応しています。しかし、保護者からは、個別面談をしてほしいという声が聞かれているため、面談を定期的実施する等が期待されます。
- ・ 送迎時には、園長、副園長、主任、看護師等による「ワンポイント相談アドバイス」をしています。
- ・ 毎月、園だより、クラスだより、給食だよりを発行しています。健康だよりは、季節ごとに発行しています。
- ・ ホワイトボードにその日の活動や子どもの様子を書いて保護者に知らせています。全園児に連絡帳があり、乳児は排泄、授乳、離乳食、睡眠などの園での様子を毎日知らせています。
- ・ クラス懇談会では、活動の内容や目的などを説明し、離乳食を進めるときに注意することやトイレトレーニングの進め方、保育要録の提供についてなど年齢、発達に応じた情報を提供しています。
- ・ 保護者の保育参加は、年2回行っています。保育参加は、園長から一日保育士の辞令を受けて、自分の子どもがいるクラス以外に入り、園全体の保育を見てもらっています。参加した保護者からは、乳児を抱く感触が懐かしいという感想が聞かれています。
- ・ 保護者会など自主的な活動は行っていないですが、保護者が活動している地域の音楽バンドの方に、運動会の際の演奏をお願いしています。
- ・ 保護者とは、常にコミュニケーションをとり、良好な関係を保ち、必要なときに相談を受けられる関係を作っています。

評価領域 地域支援機能



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1</p> <p>地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自治会に加入し、地域の状況や子育てニーズを把握しています。地域の自治会役員や民生委員・児童委員が理事を務めていて、地域の要望を聞くとともに地域の施設として何ができるかを常に話し合っています。また、地域交流、子育て支援講座などの参加者から施設に対する要望を把握しています。</li> <li>地域での子育てを支援するためのサービスとして、一時保育、園庭開放、交流保育を実施しています。24年度はのべ206名の一時保育の利用者を受け入れています。</li> <li>地域の子育て家庭を対象とした家族や子ども、排泄、睡眠等をテーマとした園長による母親講座を実施しています。また、保育士によるわらべうた、遊び、絵本などの子育て支援講座を行っています。さらに、地域交流として保育士による「わらべうたであそぼう」、異世代交流として音楽講師による「いっしょにうたいましょう」も開催しています。</li> </ul>
<p>- 2</p> <p>保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話による園長の育児相談を随時受け付けていて、緑区の子育て情報紙「みどりっこカレンダー」や園のホームページでその旨を周知しています。また、子育て支援講座の後にも個別の相談に応じています。</li> <li>園長が、家庭福祉員の保育相談に応じる、母親グループ支援事業に協力し講師を務めるなど、地域の子育て支援事業に協力しています。</li> <li>緑区、自治会、北部地域療育センター、医療機関など、関係機関や地域の団体との連携担当は園長で、日常的に連携しています。</li> </ul>






評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・ 地域コミュニティへの 働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会に所属し、園のコンサートに地域住民や自治会関係者を招待したり、地域の清掃活動へ参加したりして交流しています。</li> <li>散歩で、子どもたちは地域住民と挨拶や会話を交わし交流しています。観察時にも地域のお年寄り子どもたちが挨拶を交わしたり、ハイタッチしたりする姿が見られ、地域に子どもたちが見守られ、生き生きと生活している様子が伝わりました。</li> <li>5歳児が近隣小学校のもちつきに出かけるなどして交流しています。また、地域の老人福祉施設で子どもたちがトーンチャイムを演奏し、交流しています。</li> <li>近隣には保育園が多く、園のコンサートに近隣保育園園児を招待するなどして、交流しています。</li> </ul>
<p>- 2 サービス内容等に関する 情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>園のホームページで園の情報を提供しています。ホームページには園の保育理念・目標・方針、定員、保育時間、保育料、一日の流れ、行事、子育て支援など必要な情報が写真入りで分かりやすく掲載されています。ホームページは毎月更新しています。</li> <li>園の情報を横浜市こども青少年局ホームページ「はびねすぽっと」、緑区の子育て情報紙「みどりっこカレンダー」に掲載しています。</li> <li>利用希望者や見学者に対しては、保育所の基本方針や利用条件・サービス内容などについてパンフレットを用い、園長が説明しています。見学日を毎週金曜日と決め、申込制で行っていますが、希望者の状況に合わせ柔軟に対応しています。</li> </ul>
<p>- 3 ボランティア・実習の 受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアや実習生の受け入れのためのマニュアルがあり、それに基づき保育所の方針や利用者への配慮等を説明しています。</li> <li>運動会の準備・片づけに地域のボランティアグループの力を借りています。また、運動会の入場行進曲を地域住民による音楽バンドが演奏しています。</li> <li>地域の中学校の体験学習、養護学校のボランティア高校のインターンシップを受け入れています。</li> <li>大学、保育専門学校から実習生を受け入れ、実習目的に沿ったプログラムを工夫しています。実習後に振り返りを行い、意見交換しています。</li> </ul>

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の人材構成は、保育士、看護師、栄養士、臨床心理士のほか、特別保育担当として体育指導、音楽・絵画・陶芸・自然教室の担当を配置し、早番・遅番にパート職員を配置して必要な人員を確保しています。また、ボランティアの活動についても運営の中で計画的に配置しています。</li> <li>職員の経験年齢は若手、中堅、ベテランがほぼ同じ人員配置となっており均衡のとれた保育士の人的構成となっています。</li> <li>園の事業計画書に「職員の資質の向上」の項目を設けその中で「園の保育が保育士主体に全職員によって進められること、保護者や地域の子育て支援を含めた業務の広がりを踏まえて職員の資質向上と職員全体の専門性の向上を図る」と明確にしています。</li> <li>今年度の研修計画では、派遣研修(外部研修)に、ほぼすべての職員の参加が計画されており、延べ 66 講座を受講が予定され、着実に実施されています。</li> <li>園内研修の後でアンケートなど振り返りやレポート提出を行っており、それらを通じて研修内容の見直しもされています。</li> <li>内部研修については、非常勤職員にも受講できることを説明し、参加の実績があります。また、感染症や事故対応、AED 研修については、園の運営に必須の課題であり非常勤を含め全員が参加しています。</li> <li>非常勤職員が困った時には園長や主任などに相談するなどの取り組みが見られますが、運営規程などに相談受付担当者を明記することが望まれます。</li> <li>これまでの園の運営の成果を継承してゆくために、業務マニュアルや各種規程類を整理しファイルにまとめて、全ての職員に配布し、必要に応じていつでも確認したり、更新できる仕組みづくりが望まれます。</li> </ul>
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年法人と園の事業報告書が作成されており、保育所としての自己評価がされています。職員の自己評価は研修を行う際にアンケートや振り返りを行っており、それらを通じて把握しています。</li> <li>また園児の月案を担当職員と保護者が一緒に話し合い作成するなど、保護者の保育への参加を通じて互いにそだちをあう仕組みがあり、評価できます。</li> <li>新人職員については、ガイダンスや「新人勉強会」を開催して日頃の気づきや悩みなどについて園長から助言をしています。また、疑問や迷い、振り返りをノートに記録し、担当のリーダーが助言など</li> </ul>

	<p>を行っています。園長が定期的に新人とリーダーの双方に助言をする仕組みもあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園では保育士の個人別育成計画が策定されていませんが、今後、個人別育成計画を策定するとともに、キャリアや研修実績、毎年の自己評価シートなどを個人別のファイルにまとめて、園と保育士の双方で話し合い、共有できる仕組みづくりが期待されます。</li> <li>・ 「事業報告書」と「事業計画書」は正規職員に配布し説明していますが、非常勤職員や保護者などにも公表することが望まれます。</li> </ul>
<p>- 3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園の給与規程に、昇給基準を定め、資格取得に伴う給与の加算措置などが明文化されています。さらに共済制度や退職金規程なども明確になっています。</li> <li>・ 園規則には各職責に対する職務内容が記載されていますが、職務権限規程等は策定されておらず、副園長や主任の職務などを含め、職務内容、職務の範囲、権限移譲について明確に示されることが期待されます。</li> <li>・ 園長は非常勤を含む全ての職員にたいして年に1回、次年度に向けた面談を行って、モチベーションの水準を確認しています。また園の管理者は職員の個々の特性を肯定的に評価して業務に生かすように配置し、話し合いを進めています。</li> <li>・ 職員と保護者のより円滑な関係作りは職員のモチベーションを維持するための基盤です。園では職員、保護者、子どもの三者の信頼関係の醸成に取り組んでいますが、保護者の中から職員の顔と名前が一致しないという意見が出ていますので、何らかの工夫が望まれます。</li> </ul>

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園のしおりに児童憲章を掲載し、園内にも掲示して周知していますが、園としての法令遵守、行動規範、倫理規程、個人情報管理など独自の定めがされ、職員に配布・説明し公表することが期待されま</li> <li>・ 園規則の 36 条に「本園の適切な管理と効果的な運営をはかるため全職員による職員会議及び関係職員による職務研究会を開催する」ことを定めて実施しており、運営の透明性を確保しています。</li> <li>・ 園長は区の虐待防止委員として活動しています。</li> <li>・ ゴミの減量分別、節電を行うなど省エネルギーを進め、周囲の草刈りや花壇づくりなど緑化を進めています。</li> <li>・ 園舎は陽光を十分取り入れる設計がされていて、室内灯は日中ほとんど使わないなど、採光や省エネルギーに対応しています。</li> </ul>
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の理念、方針は明文化されており、就職の際に全員に配布し説明しています。また、玄関わきの掲示板に保育方針などを掲示して来訪者や地域の人たちにも公表しています。</li> <li>・ 職員合宿等で、テーマを決めて学びあいを行い、園の理念が職員にどの程度理解されているのかを確認しています。また、毎月、ケースカンファレンスや園長による勉強会の開催などを通じて確認しています。</li> <li>・ 園の重要な意思決定は理事会やリーダー会においてなされています。</li> <li>・ 保護者に対しては懇談会や掲示物、配布物を通して意見を求めたり、説明しています。</li> <li>・ 後継者の育成については、副園長や主任に対して派遣研修(外部研修)に積極的に参加させるなどして、マネジメントやスーパーバイジング能力の育成に努めています。</li> <li>・ 副園長と主任は仕事や会議などを通じて個別職員を把握するだけでなく、「社会福祉施設のサービス管理/そよかぜ保育園らしさを生かした経営のための組織づくり」を作成して全職員に配布し、レポートを提出させて話し合いを行うなど、助言・指導の機会を持っています。</li> <li>・ 副園長や主任の役割について園規程等に職務の範囲や権限・責任を定め、到達すべき目標を明示することが期待されます。</li> </ul>

効率的な運営



- ・ 法人の理事会は地域活動を実践したり、専門能力を持つ理事を擁しており、理事会の場に限らず、多角的な視点から情報の提供や助言がされています。
- ・ 園では「認定こども園」構想への対応を含め、5年後をめどに後継新体制への移行を構想しており、その準備を進めています。
- ・ 事業計画書や事業報告書は園長が策定していますが、策定過程に管理・監督層の職員が参画することで後継者としての責任の自覚を促すことにつながると考えられます。
- ・ 事業計画で示した各課題については、数値化や到達水準を示すなど、より具体的な行動の指標を示すことが期待されます。
- ・ 選ばれる保育園であり続けるために中・長期計画の対策が期待されます。
- ・ 職員合宿研修等を通じて園の理念や課題の共有が深められ、中・長期計画策定する基盤は作られてきています。



## 利用者家族アンケート分析

### 【実施概要】

実施期間：2013年11月1日～2013年11月15日

実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡して配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。

回収率：配付83件、回収49件、回収率59.8%

### 【結果の特徴】

問1の「保育目標・保育方針」については85.7%の保護者が「よく知っている、まあ知っている」と答えていて、そのうち97.6%の保護者が「賛同できる、まあ賛同できる」と答えています。保育目標・保育方針は保護者の賛同を得ていると言えます。

問2から問7までのほとんどの項目で満足、どちらかと言えば満足(以下満足度という)と答えている保護者が約80%以上となっています。特に「クラスの活動や遊び」、「給食の献立内容」の2項目は100%の満足度となっています。他に満足度が高かった項目は「基本的生活の自立に向けた取り組み」、「施設設備」の98%、「入園時の面接の対応」、「1日の過ごし方についての説明」、「友達や保育者との関わり」、「給食を楽しんでいるか」、「感染症についての情報提供」、「園便りや掲示による情報提供」、「保育園生活を楽しんでいるか」の95.9%です。保護者が保育園生活や園からの情報提供について満足している様子が伝わります。

一方、満足度が約80%以下と、他に比べて低かった項目は「見学の受入」(69.3%)、「残業などで迎えが遅くなる対応」(71.9%)、「保護者の要望が活かされているか」(73.4%)です。これらの項目については「経験がない」という答えもあります。

保育園の総合満足度は93.9%、不満足度は6.1%で、ほとんどの保護者は保育園に満足していると言えます。

個別意見には、「園の方針はとても分かりやすく良い」、「体をよく動かしていただいているので、子どもの健康につながっている」、「友達との遊びが楽しそう」、「食育に力を入れていてよい」などたくさんの賛同の声があります。一方、「日中の子どもの様子や園の取り組みをもっと保護者に発信してほしい」、「個別面談を行ってほしい」、「職員の名前と顔、クラスが一致しない」などの声もあります。

園は子どもを大切に保育していて、保護者も子どもたちの様子を見て満足していることが伝わります。園の方針だけでなく、日々の取り組みや子どもの様子についてさらに情報発信し、保護者とのコミュニケーションに努めることで園の保育に対する保護者の理解が深まり、保育理念にある「子ども同士、子どもと大人、保育者と保護者などがともに育ちあうところ」が実践されることと思われます。

## 利用者家族アンケート集計結果

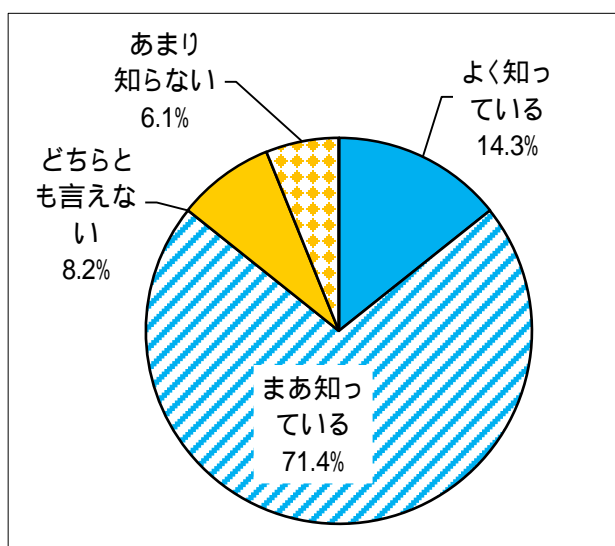
調査期間： 11月1日～11月15日

回収率： 59.8 % (83 件配付、49 件回収)

	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
クラス別回答数	8	7	8	8	9	7	2

(%)

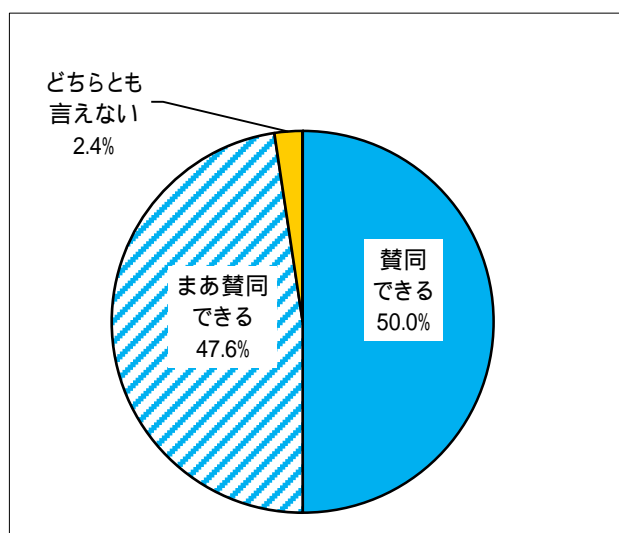
問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	14.3	71.4	8.2	6.1	0.0	0.0



付問1:

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	50.0	47.6	2.4	0.0	0.0	0.0





問2: 入園する時の状況について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
見学の受入について	30.6	38.7	10.2	8.2	12.2	0.0
入園前の見学や説明など、園からの情報提供について	20.4	61.2	10.2	4.1	4.1	0.0
園の目標や方針についての説明には	26.5	61.2	6.1	2.0	2.0	2.0
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育暦などを聞く対応には	59.2	36.7	2.0	2.0	0.0	0.0
保育園の1日の過ごし方についての説明	59.2	36.7	2.0	2.0	0.0	0.0
費用やきまりに関する説明に	40.8	49.0	6.1	2.0	2.0	0.0

問3: 年間の計画について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	32.7	51.0	8.2	6.1	2.0	0.0
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか	26.5	46.9	12.2	4.1	10.2	0.0

問4: 日常の保育内容について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
「遊び」について						
クラスの活動や遊びについては	59.2	40.8	0.0	0.0	0.0	0.0
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	57.1	36.7	2.0	0.0	2.0	2.0
園のおもちゃや教材については	61.2	32.7	2.0	2.0	0.0	2.0
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	51.0	40.8	0.0	0.0	6.1	2.0
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持っているか	46.9	49.0	0.0	0.0	2.0	2.0
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	57.1	36.7	2.0	0.0	2.0	2.0

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
「生活」について						
給食の献立内容については	77.6	22.4	0.0	0.0	0.0	0.0
お子さんが給食を楽しんでいるか	73.5	22.4	0.0	0.0	4.1	0.0
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについて	69.4	28.6	0.0	0.0	2.0	0.0
昼寝や休息がお子さんの状況に応じて対応されているか	59.2	38.8	0.0	0.0	2.0	0.0
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているか	59.2	30.6	2.0	2.0	6.1	0.0
お子さんの体調への気配りについて	53.1	40.8	2.0	4.1	0.0	0.0
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	49.0	34.7	12.2	2.0	0.0	2.0



問5： 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
施設設備について	42.9	55.1	2.0	0.0	0.0	0.0
お子さんが落ち着いて過ごせる 雰囲気になっているか	51.0	38.8	6.1	2.0	2.0	0.0
外部からの不審者侵入を防ぐ 対策について	49.0	42.9	6.1	2.0	0.0	0.0
感染症の発生状況や注意事 項などの情報提供について	59.2	36.7	4.1	0.0	0.0	0.0

問6： 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談など による話し合いの機会について	32.7	46.9	14.3	2.0	4.1	0.0
園だよりや掲示などによる、園 の様子や行事に関する情報提供 について	44.9	51.0	2.0	0.0	2.0	0.0
園の行事の開催日や時間帯 への配慮については	36.7	55.1	8.2	0.0	0.0	0.0
送り迎えの際のお子さんの様子 に関する情報交換について	32.7	49.0	12.2	2.0	4.1	0.0
お子さんに関する重要な情報 の連絡体制について	30.6	61.2	8.2	0.0	0.0	0.0
保護者からの相談事への対応 には	30.6	55.1	6.1	4.1	4.1	0.0
開所時間内であれば柔軟に 対応してくれるなど、残業など で迎えが遅くなる対応には	24.5	46.9	16.3	2.0	10.2	0.0

問7： 職員の対応について

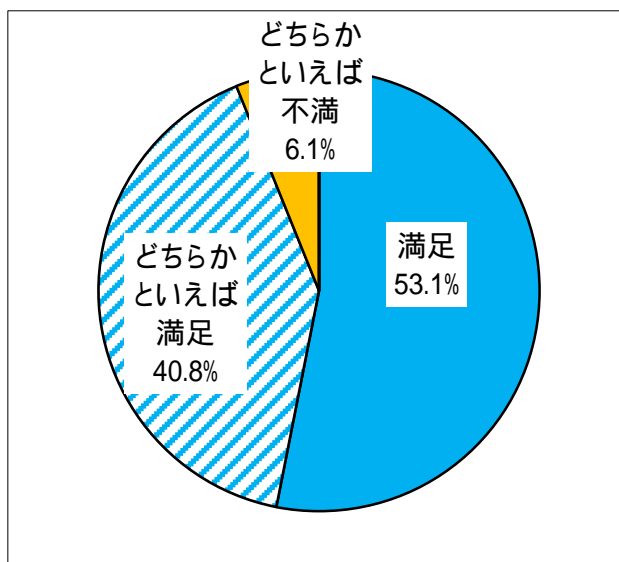
(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にさ れてされているか	55.1	38.8	2.0	0.0	2.0	2.0
あなたのお子さんが保育園生 活を楽しんでいるか	59.2	36.7	0.0	0.0	2.0	2.0
アレルギーのあるお子さんや 障害のあるお子さんへの配慮 について	34.6	40.8	2.0	2.0	16.3	4.0
話しやすい雰囲気、態度であ るかどうか	46.9	44.9	4.1	2.0	0.0	2.0
意見や要望への対応について	32.7	51.0	6.1	6.1	2.0	2.0

問8： 総合的な評価

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	無回答
総合満足度は	53.1	40.8	6.1	0.0	0.0



## 利用者本人調査

### 【実施概要】

実施日時：2014年1月17日、2014年1月20日

実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

### 【結果】

#### 0歳児クラス

- ・当園は、産休明けの乳児の受け入れを行っています。保護者に抱っこされて登園すると、「おはよう」と声をかけられちょっと照れたように保育士の顔を見えています。年度途中から利用を開始した乳児もいるため、まだお座りができない子どもやつかまりながら歩いている子どもがいます。
- ・全員が登園すると、つかまり立ちやつかまり歩きのできる子どもは、ホールに移動します。まだ、はいはいができない、月齢の低い子どもに遊ぶスペースを作るため、グループに別れて遊ぶことがあります。
- ・床暖房の設備があるホールに移動した子どもは、マットの下にクッション製の大きなブロックで傾斜を作ったコーナーで遊びます。傾斜を登ったり、コロコロと寝転んだりして遊んだあとは、ホールの絵本立てから絵本を出して床に広げたり、影になる場所に隠れたりして遊びます。隠れていた子どもが、保育士に見つけられると声を出して嬉しそうに笑っています。
- ・離乳食は、子どもの指の発達のため、スプーンを持たせず、指でつまめるものは指を使い、手づかみで食べています。食事を残す子どもはいません。早く早くと急かすようなしぐさをして、保育士にアピールしています。離乳食のあとの授乳は、自分で哺乳瓶を大事そうに抱えて飲んでいきます。この授乳法は、そよかぜ保育園の特色です。

#### 1歳児クラス

- ・保育室の扉を開けるとホールにつながります。3、4、5歳児が、ホールでラジオ体操をしている様子を見て、一緒に身体を動かしてラジオ体操に参加しています。飛び跳ねているだけの子どももいますが、大きい子の真似をして、上手に体操をしている子どももいます。
- ・体操が終わると、保育士が牛乳を運んできます。テーブルに2、3人ずつに別れて座り、「調理さんが作ってくれたの」と聞きながら牛乳を飲む子どもやおもちゃを大事そうに後ろに置いてから飲む子どもがいます。
- ・保育士がブロックで作ったマラカスを振りながら歌い始めると、子どもたちが集まってきます。一緒にマラカスを振り、歌を歌います。歌は、発表会で披露する歌のようで、遊びのなかに取り入れています。その後も絵本の読み聞かせから発表会の練習に発展させています。子どもたちは、たくさんの言葉を知っています。
- ・子どもたちは、ブロック、ぬいぐるみ、絵本で遊んでいます。ブロックで箱のような物ばかり作っているのを見た保育士は、いろいろな物を作って見せています。コマを作ると、子どもがそのコマを傘

に見立てて雨の歌を歌いながら歩きまわり、食べ物に見立てて食べるしぐさをする子どももいます。造形活動から身体を使っての表現活動へと、子どもが遊びを発展させています。

## 2 歳児クラス

- ・発表会の練習が終わると散歩の準備をします。排泄を済ませ上着を着ますが、上着が上手に着られない子どもは、保育士が手伝っています。玄関で靴を履き、一列になって出発します。靴を履くのに手間取っている子どもをしばらく待っていますが、歩き始めます。手間取っていた子どもは、あわてて靴を履いて列に加わります。みんなが揃ったところで子どもの人数を確認しています。
- ・散歩は、鶴見川の土手を下流に向かいます。鴨池橋を渡り、対岸の河川敷でかけっこや堤防の斜面を登っています。高いところまで斜面を登り降りてくる子どもや担任に励まされながら登る子どももいます。保育士は、子どもの身体能力に応じて励ましたり、見守ったりしています。
- ・斜面での遊びのあとは、春・夏チームと秋・冬チームに分かれてゲームをします。帽子をネズミのしっぽに見立てて、しっぽを取るチームと取られないように逃げるチームで追いかけてをします。かけっこやゲームで身体を使ってたくさん遊んでも子どもたちは元気です。
- ・すれ違う地域の人に挨拶をしながら園に帰ります。顔見知りの人とは、ハイタッチをして「がんばれ」と声をかけてもらいました。すれ違うときに声はかけられませんが、笑顔で見守っている人もいました。園に到着すると、調理室からいい匂いがしてきます。「ああ、いい匂いだ」と言いながら、上着を脱いで排泄、手洗い、うがいを済ませています。

## 3 歳児クラス

- ・保育室にテーブルを出して、2 種類のブロックのコーナー、お絵かきのコーナーで遊んでいます。ブロックで遊んでいる子どもたちは、最初は一人で黙々と作っていましたが、ある程度出来上がるとお互いに作品を見せ合い、一緒に遊んだり合体させたりしています。クレーン車を合体した電車や 4 本足の飛行機など子どもの発想で違う形に展開させています。
- ・子どもがもめていると、保育士が花などを作ってみせて、子どもの話の流れを変えています。一人がお花畑を作ると、自然にもめごとは解消されています。猫を描きたいという子どもがいると、一緒に書庫に行き、図鑑を見て話をしています。子どもは、図鑑を見ながら猫の絵を描き始めています。もめごとや要求に対して、保育士は肯定的な言葉で接し、保育士による遊びのデモンストレーションで、子どもたちの会話や遊びが発展しています。
- ・子どもの集中力が切れたところに散歩に出かけます。鶴見川沿いの土手を 40 分ほど歩きますが、子どもたちの歩く速度は速く、散歩をしながら歌を歌ったりおしゃべりをしたりすれ違う人と元気に挨拶をしています。鳥や猫、花、霜柱、木の枝、雲、飛行機など落ちているもの、動くもの全てが子どもたちの関心を引き、話題にのぼっています。

## 4 歳児クラス

- ・登園してきた子どもは、歯ブラシ、コップ、手拭きタオルなどをそれぞれ決められた置き場所に自分で片付けています。朝の準備が終わった子どもは、輪になって床に座り、朝の会が始まります。後から登園してきた子どもが輪に入れるように保育士が声をかけますが、きれいな輪ができません。「おと

なりさんを見て、座る場所を考えて」と保育士が再度、声をかけると隣を見て少しずつ移動しています。朝の会は、「休みの日のできごと」「昨日の夕ごはん」のどちらか一つを発表しています。4 歳児クラスでは「指示されて動くのではなく、自分で考えて行動する」の練習をしています。

- ・自由遊びのあとは、散歩に行きます。散歩の行き先は、子どもたちに聞いてから決めています。「つららがあるところに行きたい」という子どもの意見を取り入れ、散歩の準備をします。川沿いを 40 分歩いて広場に着くと、土手を降りて水たまりの氷で遊んだりかけっこや階段でじゃんけんをして遊びます。なかなか土手を降りることができない子どもには、低いところから降りよう担任が声をかけています。
- ・川沿いを歩いて帰る途中、また土手に降りていきます。高さのある場所を降りると、つららがありました。冷たいつららを割ったり、川に流したりして遊んだあとは、土手を登ります。高さがあるため、なかなか登れない子どももいます。保育士が「手をついて登るんだよ」と声をかけると手を着いて登れた子どもは、登れない子どもに「がんばれ、がんばれ」と声をかけて励ましています。

#### 5 歳児クラス

- ・チームに分かれて発表会の練習をしています。「大きな古時計」チームは、ドレミで斉唱し、トーンチャイムを準備して演奏が始まります。演奏が終わると「ちいさな世界」のチームに交代します。他のチームが演奏している間は、折り紙やトランプ、電車のおもちゃで遊んでいます。
- ・発表会の練習が終わると自由遊びの時間になります。トーンチャイムの演奏に納得がいけない子どもは、自由遊びの時間に練習をしています。手首のスナップを効かせて上手に振ると、きれいな音が出ています。担任は、自主練習を止めることはなく、本人が納得するまで見守っています。他の子どもたちは、ボール紙の棒や紙の帽子で遊んでいます。
- ・好きなコーナーで思い思いに遊んだあとは、担任、体育指導員と一緒に散歩に行きます。準備を終えて玄関に並ぶと、「ポケットに手を入れない」「体調が悪くなったときは申し出る」など散歩のときに注意することを確認してから出発します。1 時間近く歩き、長坂谷公園レストハウスに到着すると、トイレに行き、少しの休憩を取るだけで園に戻ります。往復 1 時間 40 分ほど歩き、園に到着したときは、「お腹がすいた」「はらへった」と口々に言っています。



## 事業者コメント

当法人の理念でもある「子どもも大人も共に育ち（育て）合う」ことを目標のひとつとして、子どもの生命を守る保育を最優先して平成 17 年 4 月に開園したそよかぜ保育園です。

文化変容の激しい現代を生きる子ども達の身边からは「生活」が奪われ、消費の王様にされているように思われます。少なく生んで、丁寧に育てられた保護者達も同様の育ちをしてきた核家族 3 代目であり、妊婦さんまでが、保育園探しをしています。人間は、ひとりでは生きられません。人類の知恵として、家族という、あたたかい人間関係の中で家族の育児力を育て、長い幼児期の体験の中から、ヒトの子（乳児）から人間社会で生きる子ども達へと育っていく存在です。生命を生きるということは、生活できる子ども達に育てることで、生きる子どもと大人とでつくりだす共同作品と考えています。

第三者の評価を受審するという制度ができて、市民の眼でそよかぜ保育園を評価していただきたく、今回で 3 回目の受審です。

受審の目標は前回同様

ありのままの保育を評価してもらう

職員個々の自己評価を職員間で共有し、自信を持って各自の保育を展開する

保護者の声を誠実に受け止め、子育ての原点を共有する

この世に生命を受けた子ども達に大人が望むことは心身共にすこやかに育つことです。

WHO（世界保健機関）の健康の定義は からだ ころろ 社会性がすこやかで、この 3 つがバランスよくすこやかであるとうたわれています。いま私達の周辺からは社会性はうすれているように思われます。社会性を育てる家族の育児力を育てる保育が保育園の使命と心得て保育園のすこやかな保育力を育てていきたいと考えています。

この受審に協力していただいた保護者の皆様のご協力に保育者一同感謝し、園の保育力も高めていく努力をいたします。感謝。



---

**福祉サービス第三者評価 評価機関**

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号  
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

**特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター**

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>



特定非営利活動法人  
**よこはま  
地域福祉  
研究センター**

Yokohama Community development Research center

---